

長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

平成27年5月9日(土) 第82号

タワシをまわす音が心地よく響く東部中学校



ジャージの裾をまくってお掃除する生徒さんも

1 次回が待ち遠しい! 初開催の2校

2月28日(土)には長野市立櫻ヶ岡中学校で、4月11日(土)には伊那市立東部中学校で初めての会が開催されました。東部中学校は、全校生徒数が897名の県内では最大規模の中学校のひとつです。そんな大きな学校をリードしている生徒会役員の有志の皆さん21名に先生方も8名ご参加いただき、計29名の皆さんと一緒に掃除をさせていただきました。お掃除のはじめと終わりの会の時に、発表する人にスッと体を向ける姿がごく自然にできていて、とても素直で素敵な生徒さんたちでした。今回は、生徒会顧問の前嶋先生からのご寄稿です。

目を輝かせる生徒たち

伊那市立東部中学校教諭・前嶋 和彦

「学校の清掃をよりよくしていくには、どうしたらいいんだろう?」と日々考えている中で、鍵山先生の「掃除道」という本に出会いました。伊那市立東部中学校ではここ数年学校目標を「凡事徹底」としていますが、この言葉も鍵山先生が使い始めた言葉であることに何か縁を感じました。そして、ある日職員室で鍵山先生の「掃除道」について話をしていると、同僚の先生から「長野県内にも、鍵山先生の掃除について学ばれている先生方がいる!」「トイレ掃除のやり方を教えてくれる!」と言われました。「もしかしたら、学校の清掃をよくするきっかけとなるかもしれない」そう考え、今回長野便教会の皆様に来ていただけるように連絡をとってみることにしました。

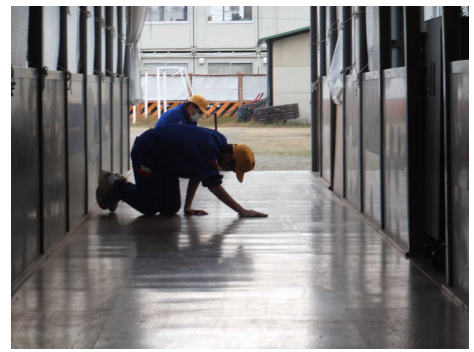
代表の太田先生にコンタクトをとり、事前に東部中学校まできていただいたり、メールのやりとりをしたりする中で、当日の子どもたちの予想される姿についてお話をさせていただきました。「当日はきっと子どもたちの目が輝き出す」「一度やった生徒は、やっていない他の生徒たちに自分の経験を語り出す」などなど。太田先生の言葉を聞いた私は半信半疑で、「正直そこまではならないだろ～」と安易に考えていました。

そして、むかえた4月11日。長野便教会の皆さんに協力をいただいて、掃除に学ぶ会が東部中学校で開催されました。朝から生徒会役員の有志が集まり、男子トイレの掃除をスタートさせました。すると、そこにはびっくりするような生徒の姿が見られました。初めはあまり乗り気ではなさそうだった生徒たちが、身を乗り出して素手でゴシゴシ便器を磨いていました。ある生徒はトイレの床にひざまずき、ある生徒は大便器を覗き込んで磨いていました。生徒たちの目はイキイキとしていて、私自身も「負けられないな」という気持ちにさせられました。太田先生のお話にあった「目が輝き出す」生徒の姿がそこにありました。一生懸命取り組んでいる中で、全員が一心不乱に掃除に打ち込み、トイレの中が無言になる瞬間が何度もありました。東部中学校では、重点目標の中に「無言清掃」があります。正にトイレの中が「無言清掃」の状態になったわけです。「無言清掃しなさい!」「静かに掃除しなさい!」と言われることなく、「無言清掃」ができたわけです。あの状態がホンモノの「無言清掃」なのでしょう。

今回は私自身とても驚きが多く、充実した一日となりました。太田先生はじめ長野便教会の皆様、本当にありがとうございました。これからの課題は「今回学ばせていただいたことをどう生かし、どのように東部中学校の清掃をよくしていくか」です。学校全体の掃除を変えていくことは容易なことではないと思いますが、私の心は今、やる気に満ちあふれています。今回の「掃除に学ぶ会」での経験を糧に先生方や生徒たちと共に考えていきたいと思っています。

先生が燃えていないのに、生徒のハートに火がつくわけがありません。お掃除をしながら早速「この次をどう展開するか」を前嶋先生と練っていた先生方が、とても頼もしく感じました。

もう1校の長野市立櫻ヶ岡中学校は、今年で創立47年目を迎える伝統ある学校ですが、校舎は昨年度改築が完了したばかりの新しい校舎です。一昨年度までは、改築に伴う仮設の校舎や渡り廊下で、校舎の端から端まで移動に5分もかかったほど、不自由な生活だったようです。そんな状況の中で、高野宏先生から「ベニヤが光った～S中学校伝説の掃除～」を紹介された生徒の皆さんが、仮設校舎のベニヤ板を磨き始めたのだそうです。かつて、第1回清掃サミットの開催校・長野市立豊野中学校でも、校舎改築の折に仮設校舎のベニヤ板を磨き込み、ベニヤ板も磨けば光ることを実証してくれましたが、櫻ヶ岡中でも磨き続けること半年。写真のように、ベニヤ板がみごとに光り出したのです。現在、仮設校舎で生活されている全国の小中高等学校の児童・生徒の皆さんと先生方、ぜひ挑戦してみてください。



2月28日(土)に開催された会には、1年生4人・2年生2人に加えて保護者や先生方のご参加いただき、人数は13名とやや小さめの会でしたが、次回につながるいい会になりました。

一つ一つの細かい部分に集中 櫻ヶ岡中学校副会長2年(現3年)・櫻井 和哉

一言で言うと、驚きました。私は、トイレ掃除というと、簡単に磨いてささっと行う物だと考えていました。しかし、今回この会で、手をついて一つ一つの汚れを落とし、ピカピカのトイレを見た時には、自分の中ですがすがしい気持ちになりました。トイレ掃除を行っている途中で一つの大事なことに気づきました。生徒会の引き継ぎから2ヶ月、スピードと効率のみを考え細部まで手が届かず、今までのトイレ掃除のようにささっとしか取り組めていませんでした。ところが、今回の会で、無心になって汚れを落としていくうちに生徒会でも、一つ一つの細かい部分に集中していこうと改めて思いました。トイレ掃除は改めて自分を振り返らせるきっかけになりました。トイレに感謝するのは変ですが、とても良かったと思います。ありがとうございました。

結果が全く違うものになる 櫻ヶ岡中学校生徒会長2年(現3年)・齋藤 大介

初めのうちは「トイレ掃除」をすることによって、本当に自分の中で変化や自分にとってプラスになることがあるのかどうか半信半疑だったが、便教会の方々のお話をお聞きしながら、少しずつ作業を進めていく打ちに、そんな半信半疑だった気持ちもどこかに飛んでいき、一心不乱に便器を磨いている自分がいた。そうすると、どんどん便器がピカピカになり、壁がピカピカになり、床がピカピカになって、自分自身の心もすがすがしい気持ちになって、心が洗われたようにすっきりした気分で作業を終えることができた。便教会の方が途中でおっしゃっていたことの中からは「創意工夫」の大切さ、いかに効率良く短時間で作業することができるのか。そのためには、どうすれば良いかを常に考えて行動するのとしめないのでは、結果が全く違ったものになるということを学ばせていただくことができた。

いかがですか？2人とも「掃除を学ぶ」ではなく、しっかり「掃除に」学んでいますよね。頼もしいです。両校から「ぜひ2回目を！」のご依頼をいただくのが待ち遠しいです！でもその前に、もしこの櫻ヶ岡中と伊那東部中の皆さんと一緒に掃除ができたなら…と考えると、きっといい化学変化が起こるように思います。一方は北信の長野市、もう一方は南信の伊那市の中学校ですから、部活でも県大会にならないとなかなか会う機会はありませんが、そのための「清掃サミット」です。生徒はもちろん、先生方も一校でも多くの皆さんと切磋琢磨しようではありませんか。お待ちしております！

2 お知らせ

○小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2日曜朝6時～8時30分(奇数月の第4日曜は街頭清掃)

6月は14日。7月は12日に中部ブロックの会に参加するので5日に変更。会場は栗ガ丘小。

○第8回長野県中学校清掃サミット→平成27年7月25日(土)26日(日)長野市立犀陵中学校
すでに県内の数校から、そして愛知や福岡の先生からも参加表明をいただいています。ぜひ！

毛涯章平先生の「道遠し」。私たち長野便教会の仲間、その思いを受け継ぐ実践者でありたいですね。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(木島平中学校教諭)
携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp
小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>